



念仏者の言葉

苦しみも悲しみも

自分の荷は自分で

背負って歩かせてもらおう。

わたしの人生だから

東井義雄



私たちの日々の生活は人間関係や健康問題、仕事の問題など数えきれないほどの苦しい事があります。出来ることなら苦しみや悲しみなどは経験せずに、穏やかに過ごしたいものです。しかしながら仏教を説かれたお釈迦さまは、「一切皆苦」(この世の一切はみな苦である)とおっしゃっています。私たちはどこまでも自分の思いに叶う現実を追い求めていますので、その限りは「一切皆苦」であるということです。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、自分の思い中心で「ありのまま」が見えていない限りは、人生は苦しみしかありません。私たちの人生において安らげる居場所はどこかにはありません。どこまでも現実の只中に居場所を見つけない限り、自分では背負っていくしかないのです。仏説無量寿経に「独生・独死・独去・独来」という言葉があります。私の人生は誰かに代わってもらえるのではなく、どこまでも最初から最後まで独りで背負っていくしかありません。しかしその苦しみや悲しみにも人生においてとても大切な意義があります。苦しみ悲しみを通して初めて気付かされる世界があります。それは決して私の思いに叶わなくても構わない、「あるがまま」の世界です。決して我慢して無理に耐えて背負っていくのではなく、自分自身を知り「あるがまま」を受け入れていく。それこそが苦しみ・悲しみへの向き合い方なのではないかと思えます。

親鸞聖人御誕生会



去る四月九日に親鸞聖人御誕生会・新生児初参り式が行われ、十名の子どもたちが初参りを行いました。最初は緊張していた様子でしたが、徐々にリラックスし、記念品を受け取る時には嬉しそうな表情が印象的でした。今回は新たな試みとして誕生会たんじょうえの後に副住職の特技でもあるそば打ちを子どもたちと一緒に行いました。一緒にそば粉をこねたり延ばしたりという作業を行い、最後には打ちたてのそばと一緒にいただきました。子どもたちだけではなく、親御さんもととても楽しく、良い経験だったと口を揃えて言っていました。



親鸞聖人御誕生会・新生児初参り式



子どもたちとのそば打ち体験

誌上法話 「人身受け難し」



（上記の御誕生会ごたんじょうえで話した子ども向け法話です）。仏教には「人身受け難しにんじんがた」という言葉があります。簡単に意識すると、人間として生まれてくる事は奇跡のようなものだという意味です。そこには様々な偶然が重なって、その一つでも欠けてしまったら、皆さんはこの世に生まれていません。しかし私たちは奇跡的に人間として生まれてきたのに、喜ぶどころかそこに様々な条件を付けていきます。最近では「親ガチャ」という流行語があるように、「もっこうだったら」「もつとああだったら」という様子です。それは子どもに限らず親も同様です。私も小さいときには「田舎ではなく都会に生まれたらどれだけ幸せだろうか」とか、「お寺ではなく普通の家に生まれたかった」なんて考えていました。しかし他の地域で生まれた時点で、そしてお寺以外に生まれた時点でそれは私ではありません。他人と比べることにも何の意味もありません。様々な偶然を通して奇跡的にいただいている自分の「今」を大切にいただいくことが、唯一無二の人生を生きていく上でとても大切な事だと思えます。

団体参拝報告



去る三月三十一日から四月一日に掛けて、一泊二日で
 本山・東本願寺で現在勤められている「宗祖親鸞聖人御
 誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」へ団体参拝
 に行ってきました。黒部・魚津の寺院の門徒の方々とバ
 ス二台で行き、当寺からも十名が参加されました。今回
 はご夫婦で参加され、同時に本山への納骨も行われた立
 野地区の能登久次さんに旅の感想をお願いいたしました。

きょうさん
 慶讃法要に参拝して

十二年ぶりの東本願寺への参拝で大変懐かしく思いな
 がら久々のバス旅行、北陸路から京都までの高速道の車
 窓からの満開の桜並木、山桜が大変美しく見えました。

京都市内の交通渋滞で本願寺到着が予定より遅れまし
 たが、早々に収骨の手続きを済ませ、阿弥陀堂の参拝席
 に座った時には既に半分が過ぎており少し残念でしたが、
 後半の念仏讃・法話を礼拝することができました。法話
 での「人と人との出会いを大切にし、喜びと感謝を」と
 の言葉が心に残りました。法要後、御影堂に移り真宗本
 廟収骨のお勤めを礼拝し、今回の参拝の一番の目的が達

成でき、私の人生に一段落出来たように思います。

参拝早々に宿泊ホテルに向かい夕食の宴会となり、旅
 行企画の心遣いで盛況な会食となり、たくさんの人との
 係りに楽しいひと時を過ごすことが出来ました。帰路は
 日本三景の一つ、天橋立観光で、展望台へのケーブルの
 前席に座り、景観は最高でコロナ禍の治まりを感じさせ
 る観光客の多さでした。展望台での股間からの天橋立を
 展望し、早々に帰路につきました。今回の団体参拝で多
 くの人との出会いに感謝するとともに、お世話を頂いた
 旅行企画・お寺様に感謝と御礼を申し上げます。

(黒部市立野 能登久次)



東本願寺御影堂・阿弥陀堂をバックに



日本三景・天橋立にて

坊守日記



三月十一日、娘の唯花が得度（僧侶となる儀式） 考査を富山別院で受けてきました。得度考査では僧侶の心得を学び、正信偈や阿弥陀經の練習を行い、装束作法などを学びます。考査前には自宅で頑張つて声明練習をしていました。得度は六月に本山・東本願寺で授式する予定ですが、本人も得度考査を通して、お寺で生活するという自覚が芽生えてきたようです。考査の日は東日本大震災の起こった日で、別院では毎年十四時四十六分に「勿忘の鐘」を撞いています。本人は震災の時にはまだ生まれていなかったのですが、震災の事を忘れてはいけないという思いで、「来年からお寺でも出来たらいいね」と話してくれました。先日親鸞聖人誕生会の際にも、「こんなことをしたらお寺に人が来てくれるんじゃない」と意見を出してくれました。とても頼もしく思えます。まだまだ子どもだと思っていましたがお寺の為に一生懸命考えてくれる姿に親としてとても嬉しかったです。四月からは六年生になりました。娘にもアイディアをもらいながら、お寺を盛り上げていきたいと思えます。



編集後記



久しぶりに京都・東本願寺へ行き、慶讃法要に参拝してきました。本山で行われる大きな法要は二〇一一年の親鸞聖人七五〇回御遠忌法要以来です。今回の団体参拝は一年前から決まっていたのですが、その時点ではコロナ禍の先行きが不透明でしたので、本当に団体参拝が実現するのか不安でした。しかし世の中がアフターコロナに向かう中で、キャンセルなど出ることなく予定通りに執り行う事が出来たことを嬉しく思います。京都の様子を見ていますと、国内外の観光客で溢れており、マスクを外している方も多く、着実に以前の光景に戻りつつあることを感じさせます。

今回のような大きな法要に参拝出来たことを嬉しく思いますし、二日間を通して多くの方々と交流できたことが、何よりの思い出となりました。



徳法寺

派大谷 親鸞聖人の
三本柿の寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX (0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

@temple_english_tokuhoji



今後の定例法座の予定は 5月10日（水）13時半～です
6月10日（土） //